

リトアニア政治・経済月間情勢(2016年5月)

概況

【20日～26日】20日、マシウリス・リベラルムーブメント党首が汚職疑惑のため党首及び国会議員の職を辞することとなった。MGバルティック社から10万ユーロの賄賂を受け取り、同社に有利な内容の働きかけを行った疑惑。グオガ欧州議員が暫定党首を務めた後、シマシウス・ビリニウス市長が党首となった。24日、マシウリス前党首は、検察当局へ出頭し、26日、正式に賄賂を受け取ったことによる取引への影響と違法に得た利益の罪で告発された。

【10日】オウグティス・ビタウタス・マグナス大学学長がビリニウスのエネルギー・フォーラムで国家エネルギー戦略のプレゼン中「エネルギー安全保障の観点から原発はリトアニアには必要なものではない」と述べた。リトアニアのエネルギー安全保障は、大陸欧州システムと電力供給網の同期化と、ポーランドとの第二のLitPolリンクの建設によって二倍となる、と述べた。オウグティス学長は、リトアニアのエネルギー安全保障のレベルは、クライペダのLNGターミナルの完成とポーランドとスウェーデンとの電力接続によって増加すると述べた。(リエトボス・リタス紙)

【12日】国会はベラルーシのオストロヴェツ原子力発電所で発電された電力の輸入を認めない決議を可決した。

【28日】リエトボス・リタス紙によれば、リベラルムーブメントのスキャンダルの影響で、次期国会議員選挙では、リベラルムーブメントが失う票の大部分を農民・グリーン同盟が得ることとなり、党首のカルバウスキス氏(Mr. Ramunas Karbauskis)は、次期首相はスクバルネリス氏(Mr. Saulius Skvernelis)になるだろうと述べている。また、その票は他の政党にも流れるものとみられ、次期選挙の結果、様々な政党による連立政権が成立し、こうした状況から政府は常に不安定なものとなり崩壊しやすくなるのではないかと予想される。

内政

(1)マシウリス・リベラルムーブメント前党首による汚職疑惑に関する報道

【12日】リベラルムーブメントのマシウリス党首は、MGバルティック社から10万ユーロの賄賂を受け取り、同社に有利な内容の働きかけを行った疑惑で党首および国会議員の職を辞することになった。また、ビリニウス市のシマシウス市長にも疑惑の目が向けられたがこれに対して否定した。リエトボス・リタス紙によれば、リベラルムーブメントは有権者に対する党首の国内遊説を計画していることから、選挙前戦略に大きな影響が生じている。次期党首としてグオガ欧州議員の名前が上がっているが、オーストラリアの国籍を保有しているため懸念事項となっている。また、農業大臣の兄弟であるゲンダラス氏も候補者として上がっている。

【16日】リエトボス・リタス紙によれば、マシウリス・リベラルムーブメント前党首による10万ユーロの賄賂を受け取ったというスキャンダルにより、リベラルムーブメントだけでは無く政界全体の信頼を失っている。また、ある政治家によると、グリボウスカйте大統領はこの賄賂の事実を認識していたと言っている。リベラルムーブメント内では、暫定党首のグオガ欧州議会議員とゲンダラス国会議員との間で支持が分かれている。

【16日】グオガ暫定党首がリベラルムーブメントを去った。新しい暫定党首にはシマシウス・ビリニウス市長が就いたが、国会議員選挙には出馬しないと述べた。これによりセントピラス国会議員が選挙人名簿の首位に立つことになる。リエトボス・リタス紙によれば、なぜグオガ氏が暫定党首を辞任したかについては、同人が党には深刻な問題があり、党員は腐敗に関して嘘発見器にかけられるべきだと述べたことに対して他の党員から失望をかけたためである。

【18日】中央選挙管理委員会は5月20日付でマシウリス氏の国会議員としての資格が喪失することを発表した。マシウリス氏は次の24日に検察当局に出頭し証言する予定であり、その後逮捕されるのではないかと見られる。

【19日】ビリニウス市の元市長であり、民主党の元党首であるズオカス氏によると、マシウリス・リベラルムーブメント前党首の汚職疑惑に対してリベラルムーブメントと贈賄側のMGバルティック社が近い関係にあったことは驚くことではないと述べた。また、金銭はマシウリス氏本人に渡ったのではなく、リベラルムーブメント全体に向けたものであり、有権者からより多くの支持を得るためだったとしている。シマシウス暫定党首とセントピラス国会議員もこの事実を知っていたはずで、彼らも調べられたら新たな疑惑が出てくるかもしれないと述べた。(リエトボス・リタス紙)

【20日】リエトボス・リタス紙によれば、シマシウス・ビリニウス市長がリベラルムーブメントの新たな党首に就くことについて、シマシウス党首はグリボウスカйте大統領から電話を受けたが、同市長はこれが自分の決断に影響したことを否定した。国会の法執行委員長であり、社会民主党に所属するサバタウスカス議員(Mr. Julius Sabatauskas)は、大統領は政党との関係では中立であるべきだと述べた。大統領が電話した意図は、検察はマシウリス前党首の汚職疑惑に関してシマシウス党首に関与すべきではないことを示すためだと考えられている。

【24日】マシウリス前党首は検察当局へ出頭し、法的な立場が容疑者となったが逮捕はされていない。リエトボス・リタス紙によれば、MGバルティック社の副社長であるクーランスキス氏(Mr. Raimondas Kurlianskis)は逮捕されており、捜査の段階で国家機密書類が住居で見つかった。クーランスキス氏の弁護士によるとそれらはただの古い書類であり重要な物ではないと述べているが、国家保安局はなぜ国家機密書類があったのかを調査している。

【26日】マシウリス前党首は、正式に、賄賂を受け取ったことによる取引への影響と違法に得た利益の罪で告発された。25万ユーロの現金が同氏のアパートで見つかり、この金は違法に得たものと考えられている。仮に有罪となった場合には、8年の服役となる。

【28日】リエトボス・リタス紙によれば、リベラルムーブメントのスキャンダルで焦点となっているのは、マシウリス前党首の自宅から見つかった金が彼自身に対して送られたものなのか、党に対して送られたものなのかということである。リベラルムーブメント側は、マシウリス前党首の自宅で見つかったお金について党との関係はないとしている。いくつかの噂が立っており、マシウリス氏が別の人物に渡すために金を受け取ったものではないかということや、ビリニウスやクライペダの市政府の意思決定に影響を与えるためのものではないかということ、そして、リベラルムーブメントへ渡すためのものではないかということが挙げられている。

(2)支持率

【20日】リエトボス・リタス紙によって発表された世論調査(5月5日～13日)では、リベラルムーブメントのマシウリス前党首の汚職による影響が十分に反映されていないが、リベラルムーブメントの支持率が低下している。秩序と正義党の支持率は現在5.3%であり、比例議席割当ての条件である閾値5%に近づいている。支持率は社会民主党、農民・グリーン同盟、祖国同盟、リベラルムーブメント、秩序と正義党の順番になっている。次回の世論調査ではシマシウス新党首に対する支持率も調査される。

【20日】5月の政党と政治家の支持率に関する世論調査が発表された。

支持政党

| | | |
|------------|-------|--------------|
| 社会民主党 | 16.2% | (前回4月 15.7%) |
| リベラルムーブメント | 8.9% | (9.6%) |
| 祖国同盟 | 8.9% | (8.0%) |
| 労働党 | 8.2% | (7.7%) |
| 秩序と正義党 | 5.3% | (8.4%) |

国民の利益を最も代表している政治家

| | | |
|-------------|-------|---------|
| グリボウスカイト大統領 | 15.8% | (16.4%) |
| プトケビチュウス首相 | 9.8% | (8.9%) |

個々の政治家について支持するか否か

| | | |
|-------------|-------|---------|
| グリボウスカイト大統領 | 53.2% | (53.2%) |
| プトケビチュウス首相 | 41.2% | (47.1%) |

【28日】リエトボス・リタス紙によれば、リベラルムーブメントのスキャンダルの影響で、次期国会議員選挙では、リベラルムーブメントが失う票の大部分を農民・グリーン同盟が得ることとなり、党首のカルバウスキス氏 (Mr. Ramunas Karbauskis) は、次期首相はスクバルネリス氏 (Mr. Saulius Skvernelis) になるだろうと述べている。また、その票は他の政党にも流れるものとみられ、次期選挙の結果、様々な政党による連立政権が成立し、こうした状況から政府は常に不安定なものとなり崩壊しやすくなるのではないかと予想される。

(3) その他

【3日】リエトボス・リタス紙によれば、社会民主党の党大会にお

いて、次期国会議員選挙のための小選挙区および比例代表選挙区の候補者リストを承認した。その一方で、プトケビチュウス党首は、仮に与党に残ることができなければ、社会民主党の党首を辞任すると約束した。プトケビチュウス党首は、国会選挙は、社会民主党が野党となるならば、成功とは見なされないだろうと説明した。目標は、少なくとも現有39議席よりも多くの議席を獲得することである。

【11日】オフショア取引についてパナマ文書で名前が挙げられたバシリアウスカス・リトアニア銀行総裁は、国会で、違法行為に関与していない、したがって法的・倫理的責任をとる必要はないとリエトボス・リタス紙に述べた。バシリアウスカス・リトアニア銀行総裁は、同氏が行ってきた業務は合法で、法的要件に合致していると国会議員らに述べた。

【25日】秩序と正義党では、ギリース国会議員と選挙活動の責任者を務めていたバシラウスカス国会議員が党を去った。パクス党首は次期選挙には立候補できないため、次期選挙での比例名簿の首位を誰にするかが懸念事項となっている。

【27日】リエトボス・リタス紙によれば、一部の国会議員の間で、二重国籍の導入をしやすくなる法改正案を作成している。現状では、全ての有権者の過半数が賛成しなくては行けないが、改正案では投票者数の3分の2が賛成すれば国民投票が可決されるとしている。現時点では、有権者数の過半数が賛成するのは不可能である。

外交

【5日】グリボウスカイト大統領は、カール大帝賞を受賞したフランシスコ・ローマ教皇の授賞式に出席した。2013年、グリボウスカイト大統領が、EU全体の経済の安定と一体性に貢献したこと、困難な金融危機を乗り切る努力が評価されて同賞を受賞している。

【6日】リエトボス・リタス紙によれば、リトアニアはベラルーシ大使を召集し、アストラヴェツ原発建設予定地における事故について口上書を手交した。リトアニアは、ベラルーシ側からこの事故

に関する説明を受けていない。Belsat.euによれば、原発建設に関係している作業員が、4月中旬に二つの原子炉間の土台となる原子力装置の構造枠が崩壊したと述べていると報じている。アストラヴェツ原子力発電所の職員は、「まったくナンセンスである」としてその情報を無視した。

【26日】グロウジエネ国会議長は、ジョージア国会議長との会談において、EUは近い将来ジョージア国民のビザを免除することになると表明した。

経済

【5日】リエトボス・リタス紙によれば、現在の政府は、新たな原発がリトアニアに建設されるかどうかを述べることに後ろ向きである。シュトラウパイト・ピサギナス市長は、4年間の不確実な状況が続く、市とその地域の発展を遅らせていると不満を述べている。政治家と専門家は、近い将来、事情が変化するという望みを捨てている。リトアニアにおける新たな原発に関するより具体的な答えは選挙後になってのみ出てくると言われている。ドゥバウスカス・エネルギー大臣補佐官によれば、原発のような重要かつ大型プロジェクトに関して回答を出す前には、エネルギー分野における状況を含めて多くの要素を検討しなければならないと述べた。

【6日】リトアニア自由市場研究所は、リトアニアの経済の四分の一は闇経済であると発表した。同研究所は、付加価値の26パーセントは闇市場で生み出されていると計算している。2005年には31%だった。(ベルスロ・ジニオス紙)

【10日】リトアニアの新たな原発計画が、エネルギー安全保障に大きな影響がないだろう、とリトアニアの新たなエネルギー戦略の共著者がエネルギー・フォーラムで述べた。「エネルギー安全保障の観点からリトアニアには必要なものではない」とオウグティス・ピタウタス・マグヌス大学学長がビリニユスのエネルギー・フォーラムで国家エネルギー戦略のプレゼン中に述べた。リトアニアのエネルギー安全保障は、大陸欧州システムと電力供給網の同期化と、ポーランドとの第二のLitPolリンクの建設によって二倍となる、と述べた。オウグティス学長は、リトアニアのエネルギー安全保障のレベルは、クライペダのLNGターミナルの完成とポーランドとスウェーデンとの電力接続によって増加すると述べた。(リエトボス・リタス紙)

【11日】リトアニアの財務大臣は、国営企業による配当金の新たな枠組みを7月に導入することを提案した。これにより、企業の経営陣がより野心的な財務目標を追求することになる。提案では、高い利益を得る企業はより低い配分となり、その逆も同じとなっている。

【12日】国会はベラルーシのオストロヴェツ原子力発電所で発電された電力の輸入を認めない決議を可決した。

【12日】エネルギー大臣が2025年までの新国家エネルギー戦略に関し会見を行った。ベルスロ・ジニオス紙によれば、今後、パブリックコメントや運輸通信省、環境省、ビジネス団体、国会議員等から様々な意見が出されることを歓迎した。また、その後最終版として政府や国会の承認を得ていく。ピサギナス原子力発電所のプロジェクトについて政治家は政治的判断を直ちに決定するか、市場の状況が変化するまで決定を延期するかの最終的な決断をしなくては行けない。ピサギナス原発建設プロジェクトが発表された時点での市場価格は60ユーロ/MW、現在は37ユーロ/MW、ピサギナス原発が実際に稼働した場合は50ユーロ/MWという試算が出ている。

【17日】ロベルタス・ダルギス (Robertas Dargis) 氏はリトアニア産業連盟の会長に再選された。同人は、ビジネスと政治家のより良い協力関係が必要であると話した。また、同人は、大統領候補について何度も声をかけられているが、固辞している。同人はエイカ社の会長職にも就いている。(リエトボス・リタス紙)

【17日】IMFの最近の報告書によると、リトアニアは労働人口の不足に直面しており、リトアニアや他のバルト諸国は大量の国民

が他国へ移民として流出している。IMFは人口流出の抑制策として高齢層や女性の活用を提案している。同報告書は、リトアニアの平均寿命は74歳であり、EU全体の80.6歳より相当低くなっており、平均寿命を引き上げるために教育機関や様々なビジネスとの協力を勧告している。労働効率は10年間で年間5%上がっているが、OECD諸国と比較するとまだ遅れを取っている。(ヴェルスロ・ジニオス紙)

【26日】経済省は、新たに商業アタッシェを米国ロサンゼルスに設置することを決定した。リトアニアの在外公館における商業ア

タッシェを所管している経済省は、リトアニアの経済界がより米国に関心を持っていると述べている。しかしながら、ロシアには5つの商業アタッシェのポストがあるが、ロシアによる禁輸措置がある中、実際に何をしているか不明である。以前、リトアニアは、輸出にあたっての10の優先国を定めている。その10カ国とは、スウェーデン、ノルウェー、独、英、仏、ウクライナ、米、中国、イスラエル、日本である。しかしながら、日本や仏にはアタッシェが置かれていない。また重要な貿易パートナーのスウェーデンには1名しかいない。(ビジネスニュース)

日本との関係

【8日】重枝大使は、第4回トラカイハーフマラソンに参加した。マラソン行事の中で日リトアニア外交関係25周年や東日本大震災についての情報発信を行った。

【9日】重枝大使は、ルデリエネ・トラカイ市長を表敬訪問し、市関係者に対して日本紹介活動を行った。

【17日】重枝大使は、杉原「命の外交官」財団主催の国際会議「北のカサブランカ」に出席した。同会議においては、杉原千畝のほか、リトアニア政府及び他国の外交官のユダヤ避難民の救済活動、杉原千畝の諜報員としての活動等を含む多岐にわたる

トピックを扱った。

【22日】第5回「WE RUN VILNIUS」に重枝大使が参加し、マラソン行事の中で熊本を震源とする地震の復興応援について情報発信を行った。

【25日】LSMUギムナジウムで、杉原千畝が通過査証を発行した行為を讃えて、「Life Visa」プロジェクトの発表会が行われた。同校の生徒たちは、杉原千畝が発行した査証のレプリカを作成し、当時のユダヤ避難民らの心情を思い、伝統民謡を自分たちの演奏と踊りで表現した。

この資料は、リトアニアの政治・経済情勢を中心に各種報道、発表をとりまとめたものですので、
記載事項の信憑性まで確認したものではありません。

記載事項は在リトアニア日本大使館の見解を示すものではなく、特定の団体・個人の利益を代表するものではありません。